

# MIC

## 情報通信 vol.30

(2010年10月発行)

**MOODY**  
INTERNATIONAL

発行

ムーディー・インターナショナル・  
サーティフィケーション株式会社  
大阪事務所

〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14  
住友生命新大阪ビル13F  
Tel:06-6150-0571 Fax:06-6150-0575

◇ MIC情報通信のバックナンバーは弊社ホームページ  
(<http://www.moodygroup.co.jp>)でご覧頂けます。

## CONTENTS

① カーボン・フット・プリント(CFP)って何?

② 特集  
③ 「製造業でのISOを考える」

製造業とISO  
事例紹介(株式会社日興工機)

④ MICニュース

経審改正動向  
IRCA国際フォーラム開催  
環境省、環境コンシェルジュ制度導入へ  
Q & A

⑤ 審査の現場から

お客様紹介  
(ハイテク情報サービス株式会社)  
連載よみもの  
「審査員の心理」(環境編)

⑥ 連載よみもの

MICリレーエッセイ  
「忘れられない出会い」  
(審査員 近藤 正徳)  
環境よみもの  
「環境とISO14001」

⑦ お客様からのお便り

「顧客満足の結果が次の受注を決める」  
(株式会社北谷組)  
「『ひと・環境・地球』にやさしい、笑顔のあふれるホテル」  
(株式会社東京ヒューマニアエンタプライズ)

⑧ 研修コースのご案内

ちょっといっぱく  
コースのご紹介/受講生からのお便り

### カーボン・フット・プリント(CFP)って何?

マーケティング・マネージャー 木村 亮

カーボン・フット・プリント(Carbon Footprint of Products)は直訳すると「炭素の足跡」。その内容を説明すると『製品のライフサイクル全体で排出された温室効果ガス排出量を合算し、それをCO<sub>2</sub>排出量に換算して表示したものです。』



皆さんは量りのマークで下が黒くCO<sub>2</sub>と書かれその上にxxxgと書かれたマーク(右下図参照)を付けている製品をスーパーやコンビニで見かけた事はありませんか? これがまさしくカーボンフットプリントなのです。このようなマークを使用した理由は製品のCO<sub>2</sub>を『見える化』する為です。つまり、その製品を生産・流通させる過程で排出した量を『見える化』した物です。でも一般消費者にとって123gという数字がどのような意味を持っているのか直ぐには分かりません。それでそのマークを一目見てその量の程度がどうなのか、また消費者にとって分かりやすい、多様な表示方法の検討を行っています。このカーボンフットプリント・ルール検討委員会は年4~5回行われる事になっており、学術経験者・業界団体のみならず一般消費者の代表も参加して検討されています。



MICとしても地球環境の保全のため低炭素社会の実現に努めるべく、今年からGHG排出量の検証等の事業にも参画しております。また海洋環境の保全という意味では海洋管理協議会の認証制度なども長年行って参りました。このカーボンフットプリント制度は、直接消費者の目に触れる大事な役割を持っています。特に食品、ドライフーズのみならず飲料品(ビールも含む)についても適用される為、非常に広範囲にわたっています。そして一般消費者がその製品を購入する際、CO<sub>2</sub>の排出量を考慮したり、日頃からCO<sub>2</sub>の排出量を気にするような行動をとるようになれば、これからも快適に生活できる都市づくりに貢献できるのではないのでしょうか。MICはこの分野においても効果のある検証業務等を通して継続的改善を促す触媒として皆様にとって役立つ様になる事を目指します。CFP制度について詳しく知りたい方は制度試行事業事務局のホームページ(<http://www.cfp-japan.jp/>)をご参照下さい。

# 製造業でのISOを考える

- 効果的活用でレベルアップを -

現在、様々な業種に広がりを見せているISO規格は、当初、製造業向けのシステムとしてスタートしました。今号では、その出発点とも言える製造業に焦点をあて、その効果的活用に向けた考察と、取得事例として、株式会社日興工機様をご紹介します。



特集

1

## 製造業とISO

MIC品質/環境主任審査員 川崎 則雄

### 製造業における問題点

製造業に限ったことではありませんが、経営者の最大の関心事は企業収益改善であり、企業の生き残りではないでしょうか。このために企業内では、日頃、懸命に様々な活動に取り組まれております。それらの中には顧客クレーム対策、差別化を図るための加工精度や耐久性等の品質向上、製造原価を含むコスト低減、リードタイムの短縮などがあります。これらの問題点改善のプロセスをより効果的なものにするため、ISO (ISO9001QMS、ISO14001EMS) の関係で考えてみましょう。

### 問題点の分析と改善方策

問題点改善のプロセスを目標管理として捉えたとき、ISOマネジメントシステムの中から特に関係の深い次の要求事項があります。

QMSでは、品質目標の設定及びレビューのための枠組みを与える品質方針の設定 (Q5.3)、製品要求事項を満たすために必要なものを含む品質目標の設定 (Q5.4.1)、品質目標を満たすためのQMSの計画 (Q5.4.2)、QMSの適切性、有効性を実証するために、また、QMSの有効性の継続的な改善の可能性を評価するための適切なデータの収集、分析 (Q8.4)、品質方針、品質目標、データの分析などを通じてQMSの有効性の継続的な改善 (Q8.5.1)、更に、EMSでも、目的及び目標を達成するための手段、日程及び責任を含めた実施計画の作成 (E4.3.3) を要求しております。

通常、期初には、企業方針とそれを具現化するための重点目標を定め、それを達成するために具体的な

実施計画を作成し活動に入りますが、重要なことは、このプロセスでは前期実績や顧客要求事項を含む企業を取り巻く環境の変化などの分析と反省からスタートすることです。この場合の分析は、単なるデータの整理だけでなく、新たな改善方策を導き出すため、問題点の適切な要因分析が求められます。例えば、工程内不良や顧客クレームに関しては、不具合現象のパレート分析などとそれに基づく具体的な要因分析の実施、また、原価低減やリードタイム短縮では、付加価値を生まない仕事の分析の実施などを行い、具体的な改善方策を設定することにあります。これらの分析結果を次期計画へ展開することになります。

### 効果的な実施計画と進捗管理

もう一つ重要なことは、目標達成のため見通しの立つ実施計画と効果的な進捗管理にすることです。見通しの立たない実施計画は指針にはなりますが、企業の事業計画を保証することにはなりません。見通しの立つ実施計画とは、個々の改善方策の効果予測と実施日程及び実施責任が明確になっていることです。また、実施計画の進捗管理は、結果管理だけでなく、結果を導き出すための個々の改善方策の進捗管理が重要であります。つまり、プロセス管理と結果管理の両者が相まって効果的な進捗管理となります。



川崎 則雄 (かわさきのりお)

MIC品質/環境主任審査員。  
コマツ(株)小松製作所)にて生産技術分野に従事。機械・機器、研究開発分野専門。石川県小松市在住。

## 目標管理とは

以上を要約すると、問題点改善のための効果的な目標管理としては、データの整理・分析・反省から始まり、企業方針、重点目標の設定、見通しの立つ実施計画の

作成、改善方策を含む進捗管理など一連のプロセスがPDCAではなく、CAPD(キャップドゥ)の考え方が望ましいことを申し上げます。このことはISO規格要求事項からも読み取ることが出来ます。

## 特集 2 事例紹介

### 「ISO9001取得を振り返って」

株式会社日興工機  
代表取締役社長 吉田 光

弊社は、1961年、天井クレーンの点検・修理業として創業しました。某メーカーの下請けから始まり、指示された仕事に追われ、当初は全く創意工夫、未来の展望などを考える余裕など有り得ない毎日でした。私の人生を変える出来事があったのは、そんな日々の真最中でした。交通事故により従業員2名の尊い命が奪われました。このことにより人生を惰性で過ごしてはいけない、何か未来に向かって成長しなければと決心し、天井クレーンのメーカーを目指し、製造許可証取得を目標に実績を積みました。努力の甲斐あって、1988年に念願の製造許可を日立との共同認可10tにて取得、その後キトーとの共同認可を経て、2006年に単独30t天井クレーン製造許可を取得しました。

2007年5月、私共夫婦の結婚30周年祝いの席で息子とISO取得の話があり、中小企業では絶対無理とその場は笑い話程度で終わったのですが、その直後、知り合いとの間でその話が持ち上がり、中小企業には中小企業向けの取得方法があるとコンサルタントを紹介してもらうことになり、同年7月より講習と書類作りが始まりました。初めて聞く単語や慣れない手順に戸惑いながらも2008年4月に、無事ISO9001を取得する事が出来ました。思い返せばそれまでの書類や会社方針に足りないことが多く恥ずかしさが襲ってきますが、この素晴らしいISOで見事に会社の軌道を修正することが出来ました。

又、私鉄関係のお得意様の新工場建築では、天井クレーン、その他搬送設備を全て製作・設置させて頂きました。完成後、鉄道業界では常となっている工場のお披露目で、弊社のクレーン・設備がJR様の目に留まり、その私鉄会社担当の方による紹介により、数日後大井町のJR東日本様より呼び出しを受け、工場内のクレーンその他の設備の保守・点検・製造をさせて頂くに至りました。後日、JR担当者様との談話の中で、弊社のことは色々調査されたそうですが、最終決定打はISO取得だったと話してくれました。

弊社にとって最強の武器となったISOをこれからも活用し、より向上した会社作りに向け努力したいと思っております。MIC様の熱心で、親切なる審査に心から感謝申し上げます。



東日本旅客鉄道様向トラバースー  
トラバースー：平行移動装置  
トラバースー製作スタッフ



<http://www.nikkokoki.co.jp/>

ISO9000シリーズは元々製造業を念頭に制定されたことから、当初大手製造業を中心に広く普及しましたが、その後2000年版の改訂により、あらゆる業種に広がると同時にあらゆる規模の組織にも広がり、中堅・中小企業での取得組織も増加しました。

厳しい経済環境の中では特に、製造業に限らず、メリットよりも負担ばかりを感じているケースも残念ながら少なくありませんが、その一方で、親会社や取引先からの要求ではなく、組織改善を目的に自らISOシステムを導入される組織も増えてきています。上述の日興工機様のように下請けからメーカーへ業務展開され、ビジネスチャンスに繋がられているお客様も多数いらっしゃいます。

ISOの導入効果として、業務の効率化や社内意識改革などの内部効果、信用度の向上や市場拡大などの外部効果が挙げられますが、特に内的要素としての組織力向上は、経営体質改善に大きな効果をもたらすものです。製造業では、技術・技能の継承が共通の大きな問題として挙げられますが、ISOをその対策として取り入れる企業も増えていきます。従来のOJTだけに頼らず、仕事を視える化する事で、人材の育成・強化、さらには組織の活性化に繋がっていくこともできます。本来ISOは経営に活かすシステムであり、このシステムを活用して組織の存続・発展に繋げていくことが理想的な形です。モノづくりの現場でISOシステムを活用し、競争力強化に役立てて頂ければと思います。



## 経審改正動向

今年7月に国土交通省中央建設業審議会の総会が開催され、経営事項審査制度の見直しが行われました。改正は、昨今の経済状況による建設投資減少の中、建設業者の経営環境もかつてない程の厳しさが増しており、公共工事の企業評価における物差しとして、公正かつ実態に則した評価基準の確立と生産性の向上・経営の効率化に向けた企業の努力を評価・後押しする目的で行われたものです。

主な改正内容として、完成工事高の評点テーブルの見直し、技術者に必要な雇用期間の明確化(6ヶ月以上)の他、社会性等(W点)の評価項目に建機保有状況、ISOの取得状況が追

加されました。ISO9001、ISO14001の取得は、多くの都道府県等で発注者別評価点として加点対象となっています。今回の経営事項審査の評価対象への追加により、受発注者双方の事務の重複・負担の軽減を図ることが可能となるため、ISO9001、ISO14001を取得している建設業者(会社単位で取得している建設業者に限る)に対して加点評価が行われることになります。尚、この改正は、2011年4月1日から適用の見込みです。改正内容の詳細については、国交省のHPをご参照ください(<http://www.mlit.go.jp/common/000120571.pdf>)。

## IRCA 国際フォーラム開催

国際審査員登録機構(IRCA)が主催している国際フォーラムが6月に横浜で開催されました。IRCAは世界150ヶ国、14,750人以上の審査員が登録している世界最大規模のマネジメントシステム審査員国際登録組織で、MICでも多くの審査員が登録しています。「MSを効果的に審査する」というテーマで行われた今年のフォーラムでは、有効性審査に焦点をあて、審査員と認証機関双方が審

査プロセス改善に向けてどのように取り組むべきかについてスピーチや討議が行われました。このような会を通じて、情報更新・資質向上に役立てるとともに、業界全体による第三者認証制度の信頼性向上の追求へ努めております。尚、JRCAなど他の審査員資格登録機関でも同様の会が開催されています。国際フォーラムの詳細はIRCAのHPをご参照ください(<http://japan.irca.org/>)。

## 環境省、環境コンシェルジュ制度導入へ

地球温暖化対策として、日本では温室効果ガスの排出量を2020年までに1990年度比25%削減の中期目標が掲げられています。その取り組みの一つとして、環境省は、効果的なCO<sub>2</sub>削減、省エネ製品の買い替えなど各家庭の状況に応じたアドバイスを行う環境コンシェルジュの育成・派遣制度の導入を発表しました。試行事業での検証後、来年度から普及活動に移行される予定です。

環境コンシェルジュの役割は各家庭でのエネルギー使用・CO<sub>2</sub>排出実態への気付きを削減行動に繋げることとされ、背景には、

前年度からは減少しているものの基準年からは34.2%と増加している家庭部門での排出量を抑制したいとの期待があります。しかし、平均気温が最高記録レベルとなった今年夏には一般家庭の消費電力量が過去最高値を記録するなど、京都議定書の削減目標である6%も厳しい状況となっています。今後、更なる取組みと同時に一人ひとりの配慮も必要です。環境省では、温暖化防止のための国民運動としてチャレンジ25への参加も呼びかけています。詳細は環境省のHPをご参照下さい(<http://www.env.go.jp/>)。

## Q&A

Q

当社は建築部門と、不動産部門でISO9001を取得していますが、来年より、不動産部門を別会社に引き継ぐことになりました。建築部門はこのままISO9001を継続する意向ですが、どのような手続きが必要でしょうか。

### Answer

現在ご登録の認証範囲に含まれている不動産部門がなくなることになりますので「縮小審査」の手続きが必要になります。登録されている事業所の除外、また部門の統廃合に伴う対象人員変更のケースも縮小に該当する場合がありますので、ご連絡ください。但し、ISO9001は業務単位での登録が可能ですが、ISO14001については事業所単位の対象人員からの部分除外はできませんのでご注意ください。

このように、認証登録業務範囲や対象人員・対象事業所(部門)などに変更(削除・減少、拡大)が生じた場合には、「認証条件変更審査見積依頼書」の提出をお願いしています。変更内容によっては、審査料金・審査工数が変更になる場合がありますので、遅くとも審査予定時期の3ヶ月前までにはお手続

きをお願いします。逆に、別の業務内容や事業所を追加される場合は「拡張審査」となり、同様に手続きが必要になります。拡張の場合にはその運用実績が必要になりますのでご注意ください。また、縮小・拡張とも多くの場合、定期的維持審査や更新審査と同時に実施しますが、内容によって、別途、変更審査を実施する場合があります。

尚、「認証条件変更審査見積依頼書」は弊社ホームページの「MIC認証登録企業様向けページ」よりダウンロード頂けます。(お客様専用ページへのアクセス方法につきましてはご契約時等に弊社より送付しております案内書をご参照ください)。ご質問、ご不明な点等ございましたら、弊社営業部までお問合せください。

## ハイテク情報サービス株式会社 様

(ISO14001:2004 認証登録)



ハイテク情報サービス株式会社様は、今年で創業14年になる環境に優しいハイテク・クッションを設計・開発されているお客様です。代表取締役の高橋克彦様が起業された当初はITコンサルティング業務が主でしたが、コンサルティングをしていく中でお客様が梱包で困っていらっしゃることを耳にして何かいい方法がないかと考えた末に生まれたのがハイテク・クッションです。ハイテク・クッションは段ボールとポリウレタンフィルムを組み合わせたもので、フィルムとフィルムの間に製品をはさむことにより、従来の緩衝材が全く必要なくなる = ゴミが出ない、という環境にとっては非常にメリットある商品です。

このポリウレタンシートは燃えるゴミとして出しても全く問題ありません。代表の高橋様は21世紀を見据えて、素材使用量の削減、繰り返し使用による廃棄物量の削減、梱包作業にかかる手間を削減など、環境を徹底的に考えてこの商品を開発されたそうです。

また、このハイテク・クッション使用による輸送での事故はゼロです。何度も試験や実験を繰り返し生まれた



商品だからこそといえます。

ハイテク情報サービス株式会社様は、9月29日から10月1日にかけてパシフィコ横浜で開催されたインターオプト2010 (<http://www.optojapan.jp/interopto/>) に出展されました。

物流から環境を変えていこうとされるハイテク情報サービス様は自社のみならず社会全体への環境の取り組みをされているといっても過言ではありません。

<http://www.his-net.jp/>

### 審査員の

### 心理

#### 第4回 (環境編)

#### 「事前訪問 その4」

MIC 品質管理室長 大村 敏夫 Toshio Omura

### 連載読み物

事前訪問でサイトを確認すると、その組織の環境管理の状況を把握できます。事前訪問で乱雑であったサイトが、一次審査、二次審査と訪問する度に、整備されていくこともあり、今後、どのように改善されていくか、楽しみでもあります。

次に審査への準備状況を確認します。システム構築活動がどのように行われたか、キックオフ、環境方針の設定、マニュアルの発行、目的・目標の設定、運用開始、内部監査、マネジメントレビューなどの実施時期や予定を確認します。認証登録の条件として、3ヶ月以上の運用実績、PDCAが一巡していることが要求されますので、二次審査の時点で、PDCAの一巡、すなわち内部監査やマネジメントレビューが完了する計画になっているかを確認します。そして、書類の準備状況についても確認します。事前訪問では内容までは見ませんが、文書審査用のマニュアル提出予定について確認します。通常、一次審査の1ヶ月前までに提出するように案内されていますが、組織によっては、事前訪問前にマニュアルが送られていることもありますし、また事前訪問時

にマニュアルを預かることもあります。

更に、審査当日、どのような形で審査するのかについても確認します。審査をどの部屋で行うのか、二人以上の審査チームの場合は、分かれての審査に対応可能かなど、確認します。審査の時にサイトの視察がありますが、特に建設業などでは現場も視察しますので、審査予定日に動いている現場があるか、そこまでの移動時間などを伺います。この情報によりサイト視察に必要な時間を把握して、審査プログラムに反映させます。

最後に、宿泊が必要な場合にはお奨めの宿について伺います。お客様から予約を入れて頂くと割引になる場合もあり、そのような場合には予約をお願いすることもあります。

以上の確認をしたら、事前訪問は終了しますが、その後に事前訪問で確認したことの報告書の作成、文書審査の実施、プログラムの作成などと続きます。



## MICリレーエッセイ ②⑧

審査員からのエッセイをお楽しみください。



From 静岡県磐田市  
近藤 正徳  
(こんどう まさのり)



## PROFILE

専門分野 ISO9001、ISO14001、ISMS、TS16949  
経歴 ヤマハ発動機株式会社、MIC審査員(現職)

## 「忘れられない出会い！」

・・・といっても人情話ではなく、技法や手法のちょっと硬い話を3つ程。

まず1つ目は、学生の頃学んだラプラス変換。面倒だった微分・積分がいとも簡単に解け、魔法にかかった気分でした。社会に出てからは一度も会うことはなく、懐かしい初恋の人のようです。

そして2つ目。新入で設計担当の頃知った、接触面のヘルツ応力。接触面の、ある深さに最大応力が発生することが解

明でき、熱処理硬化深さの意義を知りました。今じゃビジュアルな応力分布解析が出来ますが、当時有限要素法による解析すら儘ならなかった頃、『いいもん見つけ！』といった感じでした。

3つ目は、会社生活も後半の頃、品質工学なるものへの出会い。“品質とは、品物が出荷後、社会に与える損失である”というそれまでに聞いたことない定義。要はバラツキで機能の頑健性(SN比)

を評価するもので、バラツキをうまく利用した解析手法に感銘したものです。今では、工業では言うに及ばず、医学でも“マハラノビスの距離”として利用されるなど広く産業界で活用され成果が出されています。起稿中にも“最小不幸社会”の話、……?こんなのも解析出来るような気が……? ……✓コレは!、と思うような出会いがまたあらんことを願って

## 連載「環境とISO14001」 ②⑧

## 第28回 「生物多様性(2)」

MIC環境審査員顧問 郷古 宣昭 Nobuaki Goko

前回は人類を含む全ての生命の存立基盤である「生物多様性」が急速に失われていることを述べました。その問題に対して国際社会と国はどのように対応し、また対応しようとしているのか、考察してみることとします。

## 1. 生物多様性条約

多種多様性を包括的に保全し、生物資源の持続可能な利用を行うための国際的な枠組み条約が1992年のリオデジャネイロで開催された地球サミットの場で採択されました。条約の目的は多様な生物をその生息環境とともに保全する、生物資源の持続可能な利用、遺伝資源の利用と公平な利益の配分です。現在米国を除く191カ国と地域が参加しており、条約の目的を実現するために締約国会議(COP)がほぼ2年毎に開催され、以下のような重要な取り決めが行われました。( )内は主要議題となった会議を示す。

## カルタヘナ議定書(COP4; 1998年)

遺伝子操作で改変された生物が生物多様性の保全に及ぼす悪影響を防止するための措置と規制。

## エコシステムアプローチの原則(COP5; 2000年)

「エコシステム」とは生態系のこと。土地資源、水資源、生物資源を複合体として統合管理し、持続可能な利用を促進するための12原則を採択した。

## 2010年目標の設定(COP6; 2002年)

「生物多様性の損失速度を2010年迄に顕著に減少させる」という目標を採択し、具体的なゴール(最終目標)とターゲット(目標)を定めた。

## 「生態と生物多様性の経済学(スクデフレポート)」の発表(COP9; 2008年)

経済シナリオでの予測では2050年までに生物多様性が11%減少し、森林の損失は世界のGDPの6%に達すること等が記載されている。

## ABS(遺伝資源のアクセスと利益配分)(COP6,8; 当初から・・・)

本条約の目的の1つとして当初から話し合われてきたが、遺伝資源を多く所有する途上国とその資源を使用して食品や薬品を製造している先進国との間の利益配分をめぐる対立し、合意が得られていない。

## 2. 生態多様性国家戦略

生物多様性条約締結国はそれぞれの国で実現させる国家戦略を策定している。日本は第一次(1995年)、第二次(2002年)を経て、第三次国家戦略が2007年に策定され、この中で、重点課題として4つの危機への取り組みを決定している。

## 第1の危機: 開発や乱獲による種の絶滅、生息地の減少

## 第2の危機: 里地里山などの手入れ不足による質の変化

## 第3の危機: 外来種持ち込みによる生態系の攪乱

## 第4の危機: 地球温暖化による多くの種の絶滅や生態系崩壊

また、国土の生態系を100年かけて回復させる計画を提唱している。

## 3. COP10名古屋会議の課題(2010年10月18~29日開催)

COP10の主要な議題は、2010年目標の評価、ポスト2010年目標、ABSの国際的合意である。このうち2010年目標に対しては、国連環境計画(UNEP)からは生物種の減少や外来種の増加は歯止めがかからず、国際目標は達成できなかったと発表されている。また、国内においても「生物多様性総合評価検討委員会」による過去50年間のデータ検証から、第2、第3の危機は増大しており第4の危機に対しても脆弱性が懸念されるとしている。いずれにしろ厳しい評価は免れられず、ポスト2010年目標として実効性のある合意を期待したい。

今回は生物多様性(その3)としてCOP10の結果を考察しつつ、既に発表されている「生物多様性国家戦略2010」について考えてみる。また、紙面に余裕があれば欧米で行われている「生物多様性オフセット」についても言及したい。



# お客さまからのお便り



## 顧客満足の結果が次の受注を決める

株式会社北谷組 (ISO9001:2008認証登録)  
技術顧問 上野 輝之

当社は大阪府にてAランクの建設業者です。2005年、ISO9001を取得し、現在では、グループ会社を含め5サイトに拡張しています。

私が土木屋を目指したのは、新しく地図を塗り替える仕事に大変魅力を感じたからです。以前勤めていた会社で、ある大企業による世界でも有数の銅精錬加工工場の建設に携わりました。超突貫工事で製造開始の期日が決定している中での、地下30m連続地中壁BW工法でのフルコンピットの建設工事でした。現場は、海を埋め立てた工場用地の為、掘削泥水の管理が大変で難工事になりましたが、品質管理を行う中での施工方法の改善に取組み無事に完成させました。顧客企業の重役による現場視察の際、コンクリート床版の左官仕上げを見られ、その精度の高さと自分の顔が写る美しさに大変満足されました。

この精度が次工程の作業能率を決定するキーポイントになる旨を説明しました。他にも、工場全体の施工で数多くの提案を行い、顧客満足を得る為の施工を実施し、この事で海外工事の受注を請ける事が出来ました。

会社の信用は、確かな施工を実施する事で、顧客満足を得ることにより生まれてくるものです。弊社でも会社全体での「継続的改善活動」を実践し、品質向上を目指しています。顧客満足を得る為の施策として、工事基本方針検討書の「作業所マネジメントシステム計画」を十分に発揮できるように、取り組んで行く所存です。



## 「ひと・環境・地球」にやさしい、笑顔のあふれるホテル

株式会社東京ヒューマニアエンタプライズ (ISO14001:2004 認証登録)  
(ホテル日航東京) 人事総務部 高橋 英知

私ども、ホテル日航東京は2003年にISO14001を取得し、2009年にMICへ審査機関を変更致しました。

当ホテルは、素晴らしい自然に恵まれた東京のアーバンリゾート“東京バルコニー”として、お台場に立地しております。快適な時間空間を提供するにあたり、エネルギー・資源の有効利用を最優先課題とすることを基本姿勢に全員参加の活動によって環境保全への取り組みを進めています。

その中から今回は二つの事例を紹介いたします。

客室の一部には、地球環境・生活環境に悪影響を与えないよう配慮した“グリーンコンセプト”に基づいて設計された“Tokyo Balcony Room”があり、厳選した自然素材を使用、化学物質を排除することによって室内環境を大幅に高めています。床には成長が早く10年以内に伐採できる素材として注目されている竹素材を使用。壁面には空気浄化作用のある珪藻土を主材料にした壁クロスを使い、塗装ペンキも化学物質基準を下回る安全塗装を施しています。また家具にもこだわり、ベッドは生産過程はもとより、万一廃棄した場合にも汚染する産業廃棄物を出しません。全てが安全に土に戻ります。トータルオーガニックの無添加ラテックスベッドマットやオーガニック素材のリネン、掛け布団や枕は無添加のウールやコットンを使用しております。

ゴミ分別の徹底、食品廃棄物のリサイクル化(堆肥製造)に努めています。社内処理と食品資源再生施設との提携により、生ゴミの堆肥リサイクルを確立しております。製造された堆肥は、当ホテルの植栽肥料として循環利用されている他、“メイド・イン・お台場”肥料によって栽培された有機野菜を当ホテルの食材として購入する循環型リサイクルを作りあげました。

ホテルコンセプトである「しあわせのリンク&スマイル」を指針とし、常に環境への配慮と環境保護に対する積極的行動を心がけ、「ひと・環境・地球」にやさしい、笑顔のあふれるホテルを実現いたします。



ホテル全景 (港区台場)



環境にやさしいオーガニック仕様の客室

しあわせのリンク&スマイル  
ホテル日航東京

しあわせのリンク&スマイル  
ホテル日航東京は笑顔で幸せを繋いで行く、ホテル日航東京で体験できる幸せの絆、日本で一番笑顔がある場所、そんな思いが込められています。

<http://www.hnt.co.jp/>



10月14日はISO(国際標準化機構)の設立を祝うために制定された『世界標準デー』です。1947年の発足から60年以上を経た現在、ISOの加盟国は160カ国以上となり、またISO9001、ISO14001を含めこれまでに発行された規格・ガイドラインは18,000以上に上ります。グローバル化が進む中、国際規格の重要性が高まってきたことの表れであり、今後も多様化する社会でその重要性の高まりが見込まれます。

国内でも、経済産業省が、標準化への関心の喚起、工業化の推進を図る目的で、この世界標準デーを中心とした10月1～31日を『工業標準化推進月間』と定め、国際工業標準化等に貢献された方々への表彰を行っています。さらに、毎年11月は『品質月間』として、品質意識の高揚、品質管理活動の幅広い普及活動を目的としたイベントが行われています。品質月間は、全国的な品質意識向上を目的に、日本の品質管理の父と賞される石川馨博士の働きかけにより1960年より開始されたもので、今回が51回目です。今年のテーマは『品質の原点にかえり先駆者の知恵に学ぶ』。昨年半世紀の大きな節目を経て、新たな第1回目からのスタートを切るという気持ちがかめられているとのこと。

また、1989年に開始した『世界品質デー』が、今年は11月11日(毎年11月の第2木曜日)となっており、各国で品質への理解・認識促進に向けた活動が予定されています。ちなみに、世界標準デーにあたる10月14日は、日本の品質管理に大きな影響をもたらしたデミング博士の誕生日にあたり、そのデミング博士が品質管理の世界へ進むきっかけを与えた経営学の父と呼ばれた経営学者、ドラッカー氏の命日が今年の世界品質デーである11月11日です。何だか不思議な感じもします。品質月間のテーマである品質の『原点』について見つめ直す機会にして頂ければと思います。

## 研修コースのご案内

### 内部監査員研修コース

マネジメントシステムの維持・改善のために必須の内部監査。その知識とスキルを身に付けます。これから導入を予定されている企業や、既に導入され更に効果的な運用を目指す組織の皆様方にもお薦めです。

- 内部監査員コース 9001/14001/18001 (2日間)

【開催地】 東京・大阪・名古屋・富山・金沢・静岡・他

【対象者】 品質/環境/労働安全衛生マネジメントシステムの導入を予定/検討しているシステムをより効果的に運用したい効果的な内部監査を行いたい

### 審査員研修コース

審査員への最初のステップです。合格すると、審査員補になる資格が得られます。内部監査リーダーの方にもお薦めです。

- ISO9001 :IRCA認定審査員研修コース (5日間)
- ISO14001 :IRCA認定審査員研修コース (5日間)

【開催地】 東京

【対象者】 審査員の中で内部監査を行いたい内部監査グループのリーダーに任命された将来審査員を目指している

### ～ 受講生からのお便り ～

ISO14001内部監査員コースを受講して

環境内部監査員コース(2007年5月)受講  
長岡実業株式会社 技術部 芹川 亜希子

私が勤める会社は1804年(文化元年)に、薬種天産物の問屋として創業し、以来国内外の仕入・販売のお客各位に高い信頼を頂いております。現在は、天然薄荷(ハッカ)のメーカーとして又、その他扱う商品も天産物が多いため、環境に対する意識は、ISO14001取得と共に益々高まっています。

そのような中、MICのISO14001:2004内部監査員コースの講座に参加させて頂きました。講義に加え、実務に沿った実習を交えての講座は、ISO14001を初めて学ぶ私にとって、とても理解しやすく、今後、内部監査員として活動していくにあたり、大きな自信になったと感じております。

今年は当社にとって2回目となる更新審査の時期で、社内で取り組んでいる事柄を最大限アピールしようと、ISO推進員メンバーで取り組んで参りました。その甲斐あって、無事に更新審査での推奨を受けることができ、5月には継続認証の承認を得ることができました。今後は更なる取り組みに向け、新たな気持ちで臨んでいきたいと思っております。

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社  
<http://www.moodygroup.co.jp>

#### 東京本社

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2  
日本橋Nビル4F

TEL: (03) 3669-7408 FAX: (03) 3669-7410  
E-mail: mi-certification@moodygroup.co.jp



#### 大阪事務所

〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14  
住友生命新大阪北ビル13F

TEL: (06) 6150-0571 FAX: (06) 6150-0575  
E-mail: mic-osaka@moodygroup.co.jp